

## 令和4年度第1回精華町男女共同参画審議会摘録

令和4年11月7日（月）

午前10時～11時50分

役場庁舎2階 201会議室

### 1. 開会

【事務局】令和4年度第1回精華町男女共同参画審議会を始める。

### 2. あいさつ

【片上会長】男女共同参画の会の発足は2013年からで、その前から関わっており15、6年経つ。当時は男女雇用機会均等法や女性活躍推進法、働き方改革関連法といった、女性の地位を上げること、女性の職場進出というのがテーマあったが、最近では社会的性差いわゆるジェンダーや性の多様性に関する事があるが、このようなテーマは大変デリケートであり、教育や立場、宗教などが複雑に関連しており、話しにくいことではあるが、この場では、個人の立場として発言していただくことが男女共同参画を進めるテーマだと思うのでお願い申し上げます。

### 3. 審議会の設置

【事務局】本審議会は、平成25年10月に施行の、精華町男女共同参画推進条例に規定された、地方自治法第138条4の3に基づく、地方公共団体の附属機関の会議であり、その運用は精華町男女共同参画推進条例施行規則に基づき、執行する。本会議は、会議開催の事前告知、傍聴可能、会議結果が原則公開である。

### 4. 審議会委員紹介

【事務局】新審議会委員は、本日欠席されていますが、学研都市精華・西木津地区研究機関協議会会長である国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所の香山健太郎様、精華町小・中学校校長会代表である片山俊利様です。審議会委員名簿でご確認ください。

### 5. 議事

【片上会長】これより会議を進める。本日の出席委員は12名中7名、委任状3名であり、精華町男女共同参画推進条例施行規則第10条第2項の規定により、審議会の成立を報告する。

【片上会長】これより議事に入る。「令和3年度男女共同参画進捗状況について」を説明願う。

【事務局】＜精華町第2次男女共同参画計画令和3年度進捗状況調査結果、令和3年度男女共同参画推進状況調査結果について説明＞

【片上会長】委員の意見や質問を募る。

【田中委員】育児休業を積極的に取ろうという法律ができたが、男性職員の意見はどうか。

【事務局】最近では必ず取るという意識をもっている男性職員は多い。管理職研修の際にも啓発をしており、今回の結果のように目標値を達成している。所属長からではなく、職員の方から自主的に取っている傾向がある。人事担当からも庁内広報等で職員向けに情報提供を行っている。

【田中委員】育児休業を取る際の条件で、給料や期間についての話し合いは人権啓発課で行っているのか。

【事務局】まずは職員が、所属課長に申し出て、人事担当に条件などを聞いて、所属課で話し合っている。職員が個人的に積極的に情報を集めているという傾向が強くあるように感じている。

【田中委員】以前であれば、育休を取って戻ってきたときに立場が違うということがあったと思う。今は国の方でも厳しい条件が出ているが、実際にそのような事が守られているのか、実際に好条件で育休が取れたらいいことだと思う。男性も、ましてや女性も良いことだと思う。自治体ごと違うと思うが精華町としてはしっかりできているのか。

【事務局】情報提供はしている。担当課の仕事状況や時期によってさまざまであり、厳しい部分ではある。一つの事例として、昨年度から今年度にかけて育児休業を取得する職員が異動になったが、新しい職場でも引き続き育児休業を取っている。職場間の情報提供や、異動の調書にもその旨書いておくなど、職員側からもアピールしているので、風通しの良い職場環境を作りあげつつある途上なのかと考えている。

【田中委員】これに関しては出発点が良くなかったので、この法律ができてこれからの推進だと思う。男性の育児休業が気軽に取れ、女性たちを助けるということがあたりまえになれば良いと思う。

【吉井委員】男性職員の育児休業所得率の目標が10%で、実績が25%、達成率250%ということで、もともとの目標が低いのかと思うが、5年間計画目標は変更できないということで、次の段階ではもう少し上げていくとか、年度途中ではあるが法改正があったということで、表面的には10%だが、思いとして目標値25%としておくのがよいのではないかと思う。基本方針10の女性委員のいる審議会等の割合が90%だが、残りの10%の審議会とはどのようなものか。基本方針1で、コロナ禍で研修が出来なかったということだが、他の自治体ではZOOM等を使ったり遠隔で、平日の講演会などが聞けない方などに録画してオンデマンドで提供されるなどすると、回数もだが参加人数もふえて、今まで来られなかった若い世代や子育て世代の方も参加出来て活気が出てくのではないかと思う。今後、コロナがおさまってもオンデマンドでも聞けるという取り組みをされたらと思う。

【事務局】一点目の数値目標については、達成できている部分と出産関係の対象職員が毎年違うという点、目標が変えられないということもあるが、総務課と内部的な目標をもちながら取り組めたらと思う。生理の貧困など突発的に入ってくる事案等もあり、次期計画改定の際には、委員のみなさんの意見を聞きながら、達成率や新たな項目など柔軟性を持った計画づくりをできればと思うので、意見をいただきたい。2点

目の審議会の関係で18件のうち2件で、定員が少ない審議会と、文化財の関係である。女性の登用を働きかけているが難しい状況で。文化財は女性の会員はおられるが委員になる方はいない状況である。オンラインの関係は、昨年度試みている。コロナに関係なく、夜など不特定多数の方が視聴できるよう来年度以降も考えていきたい。

【吉井委員】文化財委員に女性会員もおられるので、1人くらい女性の方がいてもいいのではないかなと思う。3人の審議会はどこですか。

【事務局】入札監視委員会です。

【吉井委員】委員になれる女性を育てていただきたいと思う。

【事務局】100%目指して管理職研修会の際には女性の登用に関しては言っている。

【田尻委員】基本方針12ですが、女性の管理職割合をもう少し上げていただきたい。女性の視点から見た委員会のあり方は非常に大事である。採用の際には男女の比率変わらないが、在席している男女の比率は少し男性が多いように思う。女性の働きやすい職場づくり、幹部になっていただく比率は大事。委員会等の開催のことを考えると働く女性が参加するのは無理。夜から開催するなど工夫も必要。特に夜間人口、昼間人口も含め、精華町で女性が特に働きやすい環境づくりにするなら、そういった意見をしっかりうけとめて頂く必要があるのではないかなと思う。

【事務局】女性の管理職の登用については年々比率は上がっている。毎年1名は女性管理職が誕生している。今回の率が下がったのは管理職のポストが増えたことが影響しているが、人数的には増えてきている。控えている課長補佐級も女性が多いので、人事当局と意識しながら進めていきたい。また、会議の時間についても、日中だけでなく、休日や夜間を考えている会議もあるが、時間的に変えると弊害も出てくる。休日の日中開催を試行的に行っていこうと動き出している課もあるので参考にしながら柔軟に対応できたらと思う。

【田尻委員】昼間人口で働きに来ている方も多くいるので、しっかり意見を聞いていく場所をつくっていただきたい。

【吉井委員】会議を休日に開催するという話があったが、遠隔でされているのか。女性が働きやすということは男性も働きやすくなると思う、家でも会議に出たりというリモートを利用しないと、管理職になったから夜中や休日の昼に会議に出るとなると、本末転倒になる。働きやすさと連動してないといけないと思う。男性のように働く女性を増やすだけなら意味がないので、リモートでできるというのとフレキシブルにしていくことが抱き合わせだと思うので気をつけてやっていただきたい。

【田尻委員】商工会の女性部で2年前、ズームと並行して会議を行うようになり女性の負担が減った。時間帯も大事ですが、短時間なら会議に参加できるという方もいるので、非常に大事かなと思う。

【事務局】昼間と夜間の関係の意識に関して、今後、次期計画改定の意識調査の中で住民は無作為抽出しているが、委員の中でも学研企業の中から2名参加していただいているので、意識調査に参加していただけるような形が取れたらと考えているので、審議会委員の中で議論いただきたい。リモートに関して審議会では、コロナ禍の関係

で徐々に行っている。庁内の計画策定関係の審議会の関係は対面方式が多い。

【田 尻 委 員】100%対面ではなくハイブリッドで行えばよい。参加出来ない人の負担を減らすことが大事。もう1点、京都府知事が推進されている子育て環境日本一非常に大きい。男女でいかに子育てをしながら働くかが大事。町もそうだが府も非常に頑張っている。情報収集しながら一緒にやってほしい。

【片 上 会 長】基本方針9では特定健診だけの率になっているが、ドックの率が入ってない。特定健診とドックは同列だと思うので、まちの全体のことを表しているのであればドックもカウントの対象になってもよいのではないかと思う。町として把握できていると思うので、次期計画に向けて検討していただければと思う。

【田 中 委 員】行政から健診の案内出しているの、そこでわかるのではないのか。子育てに関して精華町は力を入れている。年に2、3回保幼小の会議があるが、そこだけで情報が止まっていることが多い。子どもたちの人権に関して、町はそこまでしているということ、保護者に対して意見を聞いて、こういう子育てをしてほしいということをお願いしたい。なぜなら、もうすぐ1年生という事業があり、各学校の地域説明会で、子どもたちがどのような環境で、どのように育てられるのか、お母さんたちは心配している。学校に常に問い合わせがあり、お母さんたちは不安をもっている。これも一つの男女共同参画の大きな子どもの人権に関する事だと思う。全体的に精華町としてどのように考えているのか。

【事 務 局】府の人権でも、保幼小の連携に関して療育の部分でクローズアップされており、加配など十分な配置をされているが、義務教育になったときのその部分がどうなのか、子どもたちの人権というのが教育関係でどのような方向性で考えられているのかというところも結構入ってきている。こちらに関しても次期計画の主な項目になってくると思うので、ご意見としていただき意識しているところです。

【田 中 委 員】ヤングケアラーに対して町は冷たいのではないかと感じる。昨年社会教育委員のとき、教育長にヤングケアラーの調査はどのようにしているのか尋ねたら「何もしていない」という答えであった。ヤングケアラーに関しての情報が出かかっているときであり、ひとり親家庭や超高齢化社会になっており、その中でどのような状況になっているのか知りたかった。それに対し我々住民も対処できる部分もあると思う。やっと今年、人権講座でヤングケアラーを取り上げる。難しいと思うが、まず調査してほしい。テレビなどで中学生17人に1人とされているが、子どもを守るまちとしているならば、しっかりと調査していただきたい。住民も協力していかないといけない問題だと思う。個人情報ということで虐待のこともそうだが学校の方も表に出すことを嫌がる。アンケートを取っても結果報告も出てこない。そのような状況で住民も協力したいができない。

【事 務 局】他の団体からも調査をするように言われており、教育関係の部署がどのように回答するか注目している。

【田 尻 委 員】とくにいじめなどクローズアップされており、大きな要因となっているのはSNSで、子どもたちはよく使っている。例えばSNSを使つての調査をすると多くの回答が早く出てくるのではないか。紙ではなくSNSという子ども目線ですということ

が大事ではないかと思う。

【吉井委員】精華町はアニメや情報を使って売りにしている。他の地域でしているがラインで相談したり、調査をネットで回答できるなど、小中学校の子どもはタブレットを持っているので、直接回答させ、助けが必要な場合は個人情報に繋ぐかどうか自分で選んで、直接ヘルプを出せることが大事。サポートしたい人たちがたくさんいる町なので、利用しない手はないかなと思う。

【藤田委員】小中学生はタブレットを持っている。学校からいじめなどのチラシを持って帰ってくるが、子どもがそれを見て電話をかけることはないと思う、タブレットで簡単に回答ができれば、困っている人が何人ぐらいいるのかなど分かると思う。直接言いつらいことがあると思うので、オンラインのアンケート方式はいい方法だなと思った。

【田中委員】外に漏れないことが大事。漏れると周囲の意見が誹謗中傷のようなものが学校側に行く。学校側はなぜアンケートの答えが返ってこないのかアンケート取ってますとだけで実行に移せない。

【田尻委員】社会が提供していく、逃げ場所は保健室ぐらいしない。前から言われているが、共有してくれる人が必要。学校だけでなく社会全般、企業も必要。男女も含めて第三者的な機関が必要。情報が漏れてしまうと困るので、安心できるところが大事だと思う。役場にそのような課が出来ればよいのだが。

【片上会長】次の議題に入る。「令和4年度男女共同参画推進事業実施計画について」を説明願う。

【事務局】＜令和4年度男女共同参画推進事業実施計画について説明＞

【片上会長】委員の意見や質問を募る。

【田中委員】「ここいこ広場」は何名ぐらいの参加があるのか。

【事務局】5から10名です。

【吉井委員】年代はどのくらいか。誰を対象にしているのかわかりにくい。

【事務局】年代はいろいろである。

【田中委員】内容がわからない。情報提供が少ないように思う。

【藤田委員】華創に出ていた。チラシを持っているが、どこに置いてあるのかは不明。12月に講師をする。女性の方の集まりを推進しようとしてされているが、何をしているかわからないと対象とする方に届いていないと感じる。たくさん人が集まって交流が生まれたらよいと思う。8月から開始されたばかりで周知ができていないのかなと思う。小人数しか参加されていないのがもったいない。

【田中委員】住民の方は居場所が欲しいと言う声がある。こういう場所があるにも関わらず周知できていないことがもったいない。藤田委員は健康の部分で講義されるのか。

【藤田委員】こくらくさんに相談を受け、目的とされていることで、4月から妊娠検査薬やコロナ検査薬の開発の仕事をしており、学生向けや他の団体にインフルエンザ検査薬の仕組みについて話をしたことがあり、その話をすると良いかなと思った。たくさんの方に来ていただいて、いろんな方が来てその中でつながりが生まれたら、居場所ができるのではないかと思う。チラシはどこに置いているか。いい取り組みだと思うのでたくさんの方に来ていただけたらいい。

- 【事務局】庁舎内や、子育て支援センター、かしのき苑にチラシを置いている。
- 【田中委員】むくのきセンターもたくさんの方が来るので置かせてもらおうと思う。
- 【吉井委員】メールやラインなどで、登録制で情報が入るようにしておけば、いろんなイベントの情報が入って、いろんな人に伝わるのではないかなと思う。
- 【田中委員】学校の方では、保護者にメールで情報を出しているのだから、学校の方にもお願いしてみてもどうか。
- 【田尻委員】知っていただく、気付いていただく機会の創出をどのようにしていくのかということで、講演等の動画をあげてもらおうと、教材ということで学校でも使える。ラインでの広報、アンケートの集約など行政は頑張っている。いかに機会をつくっていくかということが大事。行政だけで足りないなら、行政以外にも協力を求めていくことは大事なことだと思う。
- 【寺本委員】計画について、これから柔軟に考えていただくということであったが、目標をどこに置いているのか。日本の男女平等はヨーロッパに比べて遅れている。日本の標準に合わせているのか世界を標準にしているのかで全く違う。世界を標準にしているのであれば、管理職も平等というのであれば20%ではなく50%にすればよい。ヨーロッパでは起業するのに1/3が女性が役員でないと会社設立できない。女性議員も定員が決められている。精華町は何を目標にしているのかがよくわからない。町で計画を達成したらそれでいいというのは違うのではないかな。民間では事業計画を立てたら予算があり、予算が限られているので順番を決めないといけない。どこからやっていくのか、ばらまいても効率が悪い。集中して救っていかなければならない。何を一番に考えて予算を組むのか、IT化に取り組むのか、まず周知することをするのか、目標に対して達成する順番がある。審議会でいろんなことを言われているのは正しいが、一度に予算でできるわけではないので、どこから救うのか、どこに予算を充てるのか決めるべきではないのか。皆さんが言われていることは正しいが、困っている方や改善することが求められている。効率を求めて何に予算を使うかということ議論することが第一ではないのか。
- 【田中委員】今日は第1回目ということで、事業計画は立てられているが、これから作りたいという部分を聞いて事務局で考えていただく。社協の基本計画第5次の報告を聞いたが、出来てないことがたくさんありがっかりしている。住民にきちんと紹介していくと、課題が見えてくるので、今期はこの課題を、次はこの課題という方向で機会を作っていくか、いつまでたっても実行できないということを申し上げたことがある。やはり行政の予算の問題とわれわれの意見を討議の部分で行政がどう見ていくか、町で一番何が大事なのか考えていかなければならない。
- 【寺本委員】行政をあてにするのは、民間でそのように思っているのか。企業はいじめや子どもの自殺問題など、教育委員会や児童相談所はなんの役にも立っていない。予算があるなら、まちづくり協議会の会長として筑波と同じ様な環境で作った企業で、世界一を目指す企業が多い、精華町が日本の中や、京都の中とか関係なく、日本の法律に触れるなら出来ないと思うが、日本の基準より上に行くことは悪いことではない。目標は日本の基準じゃなく世界の基準に置くとかしないと、行政に頼ってはまず男

女共同にならない、行政がそうではないのだから。精華町がそういうものを目指すなら、世界標準を目標にするとか、住民の意見を反映するのが行政じゃないのか。今の住民が行政を信頼されているのかどうか。町が予算を使えるように企業が儲けて税金をたくさん納めるとか、地元の方を雇用するとか。自社でも育休を使って復帰している方は何人もおり、それを受け入れている。例えば大手の金融機関では育休を取り、復帰すると元の職場に1日だけ戻り、すぐに転勤で他の支店になる。現実はそのような社会である。このような会議を開いてやっていくということは虚しく、本当に行政は現実を知っているのかと思う。この先、何カ年もかけてするのであれば、この目標というのはいかがなものかと思う。平等を推進するのであれば、平等というのは50%であり、10や20%を達成したから平等なのか。計画は50%にすべきではないのか。

【片上会長】その辺りは事務局で検討いただいたらと思う。現実と理想の部分はある。

【寺本委員】このような会議では理想を追うべきでは。

【片上会長】町としては、実績が出てくるので、目標を上げてそれに対して向かっているというのは評価にならない。

【寺本委員】民間では最初から低い目標を達成しても、あたりまえのことで評価にならない。

【片上会長】否定しているわけではなく、お互いの立場があるので、その基準をどこに置くかというのは、今現在はこの位置に置いている。

【寺本委員】それは行政の立場で、私は行政ではないから立場はない。そのために我々は来ているのであって、決められた立場で発言しても、決められたことしか発言できないということになる。私は企業の経営者として、まちづくり協議会の会長として来ている。民間の一個人として、わたしが見える世界で見た話を申し上げているだけ。

【片上会長】それぞれの立場として答えがあるので、行政には検討して前向きに進めていただくことを願います。

【田中委員】精華町は地域的に格差がある。大企業もたくさんある。男女共同参画というのは生ぬるいという気がしている。住民の発言に対して、行政が認めてくれないといけな。事務局の中で決めて推し進めている。私も精華町でいろんな委員をしているが煮え切らない部分がたくさんある。

【寺本委員】それが日本なんです。だから変わらない、遅くて遅れている。昭和の時代は残業して朝までものを作れということ平気でやったが、今は働くなという時代、それをどう取り入れるか、考え方も変えていかないといけない。今までの日本の行政は事なかれ主義で、過激な意見は排除される。最初から予算が決まっていてこの範疇で決めてくれと、事務局も委託を受けて運営しているから目標が最初から決められる。こういう会議に出てきてこのようなことを言っても虚しいとは思いますが、せっかく出てきたので言わせてもらう。民間企業からみればあまくぬるい、目標が低い。こういうのを立てるときに、次の子どもの世代はもっと大変。年金はもらえない、税金も上がる。為替はどんどん下がり財産をなくしているが、日本人は文句を言わない、世界ではありえない。理想を言って届かないとだめだというなら、最初からそんなことを言うなら意味がない。難しい目標を立て、工夫をする。当たり前に行えることを審議する必

要があるのかと思う。

【片上会長】会長の立場から言うと、住民の半分が旧民、半分があたらしい方、そのうち約1割が急進的な大企業、学研都市の動きと、商工会のスタンスは違う。また農業などあり、合計したものが町としてやっていかないと仕方がない。先端の部分だけをもっておっしゃっても全てが進むわけではない。

【寺本委員】仕方がないという考えがおかしい。

【片上会長】立場やキャリアなど、いろんなものがあり一つのものができる。町は常に平等。

【寺本委員】困るのは、一番スピードの遅いものに合わせてすると時間もお金も効率が悪い。企業は、現実の問題を解決することが求められるている。どこから救うのか決めないと、さきほど言ったように全てを救えるのか、現実できないじゃなか。

【片上会長】考え方はよくわかるが、土台に入ってきたときに、みなさんが同等の動きができるのか、そういう目標ができるのか。

【寺本委員】それを作っていくのが、こういう会議ではないのか。

【片上会長】意見としては聞かないというわけではないし、今も事務局をお願いしている。そういう意見もあり、トータルの目標や、推進をしていかないといけない。町として底上げも必要。

【寺本委員】これが本当に達成するということでないといけない。時間がかかるかかからないかは別で、平等になっていくということは勝手にはならない。理由があつて仕掛けも法律も作らないといけない。

【片上会長】絶対目標ではない。企業は常に前進するため絶対目標で、それを切れば後退になる。役場は分母上げをどのようにしていくのかということをしないとトータルは上がっていかない。

【寺本委員】分母上げをするときに、いかに効率的にするか考えないといけない。

【片上会長】この審議会だけで町が動くわけではなく、各部、各セクションが平均的に上がっていくことが目標であつて、個々の部署が立てた目標をないがしろにして、ここだけがとんがって計画を立てても動かない。お互いに町政をみて目標をたてている。

【寺本委員】付度ではないのか

【片上会長】現実としてみている。

【寺本委員】現実としてみているのであれば我々企業も現実をみている。このようなことを日本は長年続けてきた。若い方、女性の方が未来があるのか、将来性があるのか感じているかということ、ほとんどの方が感じていない。一点ずつでも改善していく必要がある。

【片上会長】今後として反映していく。皆さんが納得して進めていくのが審議会であるので、ひとつずつでも改善できれば良いと思う。

【寺本委員】その一つを改善するのに、何にするのか決めることが大事。

【片上会長】それは参考にしていく。

【田中委員】それは行政の力が強いと思う。20年近くかかわってきて、4年前から女性の管理職が増えている。力のある方を引き上げ、力のない方も教育してきっちりとした職員を育てて欲しいと要望していた。今年は特に増えてきたので、これ以上発展し女性の



管理職が増え、女性の職場にしてほしいと思う。行政としてしっかりやらないと住民はついてこないということは他の会議でも出ている。一つのことを目標としてやっていく思いが一致すればいい。審議会が年に2回は少ない。推進会長をしていた時は毎月のようにしていた。コロナで減っていることもある。コロナにより人間関係も希薄になっている。

【田 尻 委 員】 行政が遅いという意見がありましたが、確かに遅い。一番大事なのはこういった障害をいかにクリアしていくかということ、コロナなど経済状況が悪化している。経済状況が悪化するのわかっている。それに対し行政は先に手を打つ必要がある。社会情勢が悪化するとDV、いじめが頻発する。先に手を打っていくのが大事。想像をつくように周知を行い広報発信する。これが行政にとって一番大事なことだと思う。

【事 務 局】 国や府から降りてきている内容に沿った形が今までの流れであるが、民間的に最近、ジェンダーギャップ指数という世界標準の部分で、政治経済の指数が悪いというのが、現計画の中にはないので、次期計画の中では政治的な指数、議員の人数など入れ、具体的な指標の項目を委員のみなさまに意見をいただき、素案作りを元に行政内部で検討できたらと思う。女性活躍交付金の件ですが、令和3年度から儲けられており、NPO法人に委託して行うとある。都市部は女性関係のNPO法人が多いが、都市部を離れると少なくとも社会福祉協議会等の福祉団体に委託しているところが多い。町内のNPO法人の活性化を図るためにもNPO法人に公募をした。住民の活力や各種団体の協力を得ながら、事業をすすめていけたらと考えているので、法人の活性化や場づくりとして考えていきたいのでご意見いただきたい。

【田 中 委 員】 厳しいことをいいますが、女性が議員になりたい、立候補できる環境を作ってほしい。町の女性議員は少ない。議員の情報も議会だよりしかない。精華町の議員になりたいと思う環境づくりが大切。私がNPOを立ち上げた時は行政は協力してくれなかったが、環境というのが大事。女性は力強い助っ人と考えていただけたら精華町は潤うと思う。

【片 上 会 長】 他に意見がなければ、これで議事を終了する。

【事 務 局】 積極的なご意見に感謝申し上げます。時間の関係から、発言いただけなかった場合は事務局まで連絡をお願いします。これで令和4年度第1回精華町男女共同参画審議会を閉会とする。